

各モデル地区の中間総括



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括

2. 社会実験の終了箇所について

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括（全体一覧）

★：現地関係者打合せ等
 ■■■▶：ツアー実施

◆R4年度の各モデル地区における協議会、モニターツアー等の実施状況、予定

地区	R4年度(下半期)						R5年度
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	予定
天ヶ瀬ダム	10/5 意見交換会 ★				2/9 モニターツアー ★	3/2 観光発展検討会 ★	・小・中学生向け特定テーマでの周遊プランの作成 ・販促資料の作成
鶴田ダム	10/13 関係者会議 ★		12/14 ダム湖協議会 ★		2/8 意見交換会 ★	2/22 ダム湖協議会 ★	・体験会の有料化 ・持続可能な事業体制の検討
日下川新規放水路	10/3 意見交換会 ★		12/7 関係者打合せ ★		2/20 現地協議会 ★		教育/一般向けのコンテンツ内容の検討とガイドシナリオの作成予定
来島海峡大橋	10～11月 モデル事業によるツアー ■■■■▶						R5年度モデル事業実施予定（個人枠の検証）
鳴子ダム	民間事業者によるツアーの企画・販売 ■■■■▶						持続性の向上（オープン化の取組、バリエーション化）
白鳥大橋	主塔登頂クルーズ運行 ※クルーズ運行は春季～秋季のみ ■■■■▶						商品の質向上・バリエーション化に向けて方針を検討予定
ハツ場ダム	地域主体のツアー実施 ■■■■▶						地域主体のツアー実施

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括（考え方）

各モデル地域の今後の実施方針において、現状を整理する事業項目及び基準となるポイント

1 【戦略策定】

- ✓ 現状把握：地域の観光資源を把握しているインフラ施設来訪者数や属性を把握している
- ✓ 事業目標の設定：実現したいゴールイメージや数値目標が設定されている

2 【事業基盤の構築】

【体制構築】

- ✓ 会議体の組成：関係者と合意形成を図れる会議体がある

【受入環境の整備】

- ✓ 最低限必要な施設の整備：安全対策上必要な柵の設置や貸出用の備品、駐車場等が整備・用意されている
- ✓ 予約受付体制：観光客の見学会の申込みに際して、予約管理可能な体制やウェブサイトが構築されている

3 【提供商品の造成】

【コンテンツ造成】

- ✓ 基礎情報のタリフ化：最少催行人員や料金等のコンテンツの基礎情報が一元的にまとまっている

【ガイドの整備】

- ✓ ガイドの役割の明確化：ツアー等において施設の職員以外がガイドを行う場合にガイドが担う役割が明確化している

4 【対外的な発信】

【情報発信】

- ✓ 情報発信可能な媒体を有する：ウェブサイトやSNSにおいて取組主体が施設の情報やアクセス等の基礎情報の発信が可能な媒体がある

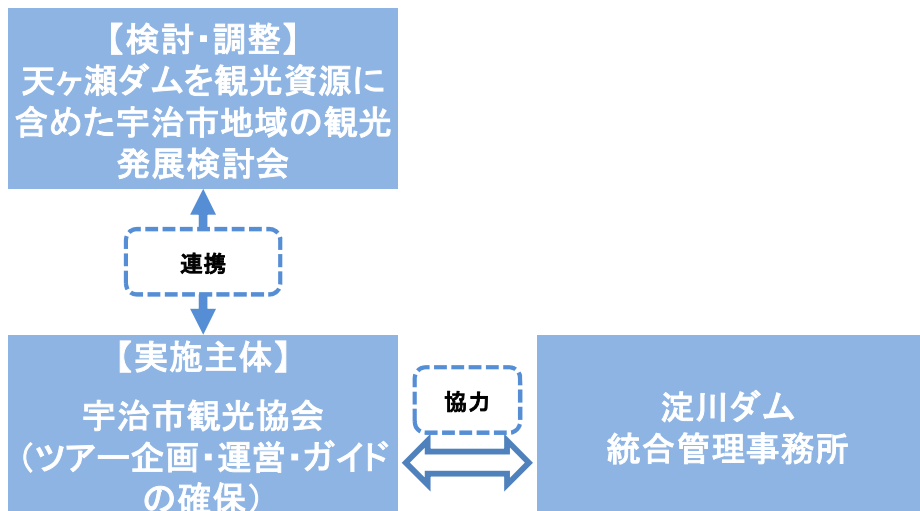
【販路構築】

- ✓ 販売先の確保：DMOや旅行会社、OTA等の様々な販売窓口に対して商品を提供し、販売いただける状態になっている

天ヶ瀬ダム
(近畿地方整備局/淀川ダム統合管理事務所)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 天ヶ瀬ダム① -

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

モデル地区採択（令和元年7月）

- 令和元年度
 - ・（11月）現地協議会の実施 ※第1回
 - ・（11月）モニターツアーの実施
 - ・（3月）現地協議会の実施
- 令和2年度
 - ・（12月）現地協議会の実施
 - ・（3月）現地協議会の実施

- 令和3年度
 - ・（11月）モニターツアーの実施
 - ・（3月）現地協議会の実施
- 令和4年度
 - ・（11月）有識者委員意見交換会
 - ・（2月）教員向けモニターツアーの実施
 - ・（3月）新規ガイドマニュアルの制作

これまでの取組

① 戦略策定

- ・ 観光発展検討会等で近隣（宇治市内）の教育機関の誘致に向けた取組を行うことで合意形成ができ、実施すべき取組事項（既存コンテンツを教育旅行に特化した内容へ変化等）が明確化されている
- ・ 一方で誘客数（利用学校数）等の事業の目標数値の設定は検討中

② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備

- ・ 既存の発展検討会を、参画者の役割をより明確化した協議会へ変更することを検討している
- ・ 宇治市観光協会が中心となった、対外的な予約受付体制は構築されている
- ・ 天ヶ瀬ダムのハード整備は、管理事務所を中心に教育旅行の受入に向け追加の整備/備品の購入を検討中

③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備

- ・ これまで提供していた一般団体向けの見学商品（タリフあり）を教育旅行向けに磨き上げしている途上
- ・ 令和4年度2月に実施した宇治市内の教育向けモニターツアーでは5名の教員より意見聴取を行った
- ・ ガイドについては、職員・地域ガイドの役割や案内内容の切り分けの明確化を行うガイドマニュアルを整備

④ 対外的な発信 情報発信/販路構築

- ・ 施設管理者ウェブサイト及び宇治市観光協会のウェブサイトにて天ヶ瀬ダム見学の情報を掲出
- ・ 販路については宇治市観光協会が中心となり、旅行会社向けの販売等を行っている

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 天ヶ瀬ダム② -

教員向けモニターツアー実施概要

実施日：2023年2月9日（木）13:30～16:30

参加者：宇治市の小中学校の教員、教員委員会職員 計5名

同席：近畿地方整備局、淀川ダム統合管理事務所、宇治市役所、宇治市観光協会、JTB

<現場見学>

天ヶ瀬ダム施設見学

<意見交換会 次第>

1.天ヶ瀬ダムの見学コンテンツについて

- (1) 体験内容について
- (2) 安全対策の過不足
- (3) 課外授業（社会科見学・職場体験等）での
活用可否（料金や受入体制等）

2.ガイドマニュアルについて

- (1) 説明内容について（難易度や用語等）



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 天ヶ瀬ダム③ -

<教員向けモニターツアー>

インフラツーリズムにおける参照意見と実施メニューの例

テーマ	コンテンツ関連		ガイドマニュアル関連
参照意見	<ul style="list-style-type: none"> バスで来て2時間の内容だと短く感じる。どこか他も見学したり、ハイキングしてご飯を食べるなど、何かとセットにすると良い。バス代の高騰もある。例えば、テーマ別で関連学習をまとめて行えるようなツアーがあっても良いのでは 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生だと職場体験が良い。小学生が来た時に、中学生が説明する流れを作りたい。事前に教員の見学会もあると良い 中学生向けのコンテンツとして、職場体験等で天ヶ瀬ダムの取組を知った中学生が小学生をガイドをするような体験があっても良い 	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの説明を必要に応じて使い分けるのであれば、テーマで分けると使いやすい 例えば、テーマ別で関連学習をまとめて行えるようなツアーがあっても良いのでは
打ち手	テーマ別のパッケージツアーの造成	中学生ガイドプランの組み立て（職場体験等）	案内内容をテーマ別にタグ付け
実施案	<p>■ 主体者：宇治市観光協会</p> <ul style="list-style-type: none"> マニュアルをテーマ別に分けて、テーマに合わせた日帰りツアーの造成 市内の小中学校がターゲット 宇治市観光協会・宇治市役所を中心に市内の学校へ働きかけを行う <p><コース例> （環境）①天ヶ瀬ダム→②市内上下水道施設</p>	<p>■ 主体者：淀川ダム統合管理事務所 / 宇治市観光協会（ボランティアガイドクラブ）</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場体験として天ヶ瀬ダムの取組を知っていただくと共に、ガイドができるように講習を行う 中学生は小学生が天ヶ瀬ダムを見学する際のガイドとしてアテンドを行う ガイドできる中学生には管理事務所より認定証（ダムカードの改変？）を授与 	<p>■ 主体者：JTB</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイドマニュアル記載の案内内容にそれぞれテーマのタグを付記 管理事務所職員やガイドが学生の案内をする際に、学校の要望（テーマ）に合った内容を取捨選択しやすくできるようガイドマニュアルを改変

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 天ヶ瀬ダム④ -

造成コンテンツ（例）

企画名	天ヶ瀬ダム見学ツアー (教育旅行向け/送迎なし)	国内	団体	△
			個人	△
教育		クラス別	△	
		班別	○	
		学年	△	
訪日		団体	-	
		個人	-	
企画概要	天ヶ瀬ダムは、宇治川流域に建設された「ドーム型アーチ式」のコンクリートダムです。堤頂長約254m、堤高は約73m。天ヶ瀬ダムには、「洪水を防ぐ」「電気をつくる」「飲み水を供給する」の3つの役割があります。流域の他のダム・堰と連携しながら、淀川の水量をコントロールし、流域の暮らしを支えています。	商品イメージ		
設定期間	通年			
設定除外日	不定期※土日祝は受付不可の場合があります			
販売価格 (料金/税込)	1人あたり1,500円 最低価格:30,000円			
旅行会社への販売手数料	0%			
料金に含まれるもの	タクシー代、見学料、ヘルメット等の貸出、ガイド料、保険料 ※ガイドは参加者20名あたり1名同行			
料金に含まれないもの	-			
商品内容 (詳細)	※事前・事後の学習シートを活用した学内学習 ※講師等の派遣は応相談			
	●国土交通省職員によるダムの説明			
	●天ヶ瀬ダムの見学(※見学内容は状況により異なります。管理支所の見学、点検放流見学、キャットウォーク、堤頂見学、等)			
	所要時間	2時間程度		
	実施場所	天ヶ瀬ダム		
アクセス	宇治駅より車で15分程度	送迎	○有○・無	
駐車場	応相談			
最少受付人員	15名	最大申込人員	応相談	
最少催行人員	15名	受付締切日	5日前まで	
予約受付先	宇治市観光協会(専用のウェブ申込フォームあり)	電話番号	-	
取消料	7日前30%、前日40%、当日50%、無連絡・予定開始時間以降100%			
アレルギー対応	-			
雨天時の振替	なし			
体験保険の有無	あり ※宇治市観光協会にて付保			
車いす対応	一部不可(キャットウォーク等、段差のある過疎			
緊急連絡先	病院			
	警察	消防		
その他 (注意事項等)	○工事状況や天候により、見学内容が異なります。予めご了承ください。 ○緊急体制時には、見学を中止することもございます。 ○動きやすい服装(靴)で、女性はズボン(パンツスタイル)を着衣してください。 ○移動しながらのデジタルカメラ・スマホ等の操作は禁止しています。			
問合せ先	一般社団法人宇治市観光協会 ※申込フォーム: https://select-type.com/e/?id=21Pmsa9pRGA			
	電話番号	0763-67-3300	URL	https://www.kyoto-ujii-kankou.or.jp/

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 天ヶ瀬ダム⑤ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットや実施すべき事業項目についての合意形成は図られているものの、目標の販売数等の定量目標が策定できていないため、各実施項目の程度感にばらつきがある印象 	<数値目標の策定> <ul style="list-style-type: none"> 短期的な数値目標を設定し、達成に向けた事業タスクを細分化・明確化する必要がある
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 新たに協議会が発足予定であり、体制面における未整備事項は無いものと思われる 	<ul style="list-style-type: none"> -
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> 新たなガイドマニュアルのガイド向け講習会は未実施 宇治市内の学校向け特定テーマでの周遊プランは未整備 	<特定テーマにおける周遊コースの整備> <ul style="list-style-type: none"> 環境やエネルギー等の小中学校で取り上げられるテーマで天ヶ瀬ダム及び周辺施設（浄水場等）を周遊するプランを、宇治市内の学校向けに整備する必要がある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> 宇治市内及び全国の教育旅行に対しての情報発信ツールは今後整備する予定 宇治市内向けの販促は未実施 	<実売につながる販促の強化> <ul style="list-style-type: none"> 宇治市内の学校に対して販促を強化し、販売実績を積み上げる必要がある

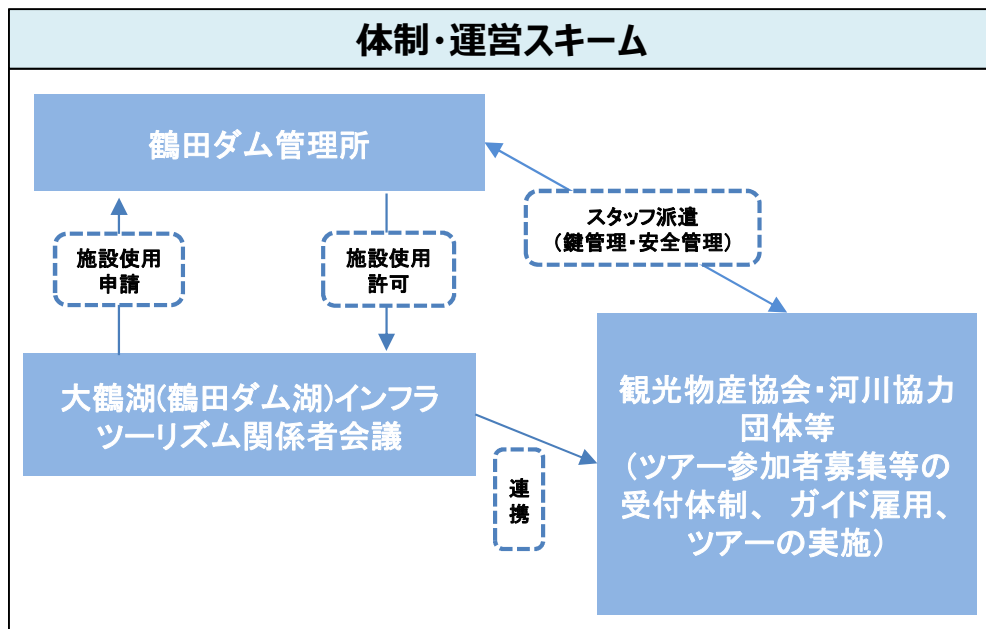
<総括>

✓ 教育旅行に向けた取組みの深化

- 地域で合意したターゲットである「教育旅行」の誘致に向けて、今年度実施した教員向けモニターツアーの実施や学校のレベルに合わせたガイドマニュアルの整備等を継続して実施する必要がある
- そのうえで、受入/販売の実績作りに向け、当面は宇治市内の学校を対象とした販促を強化する必要がある

鶴田ダム
(九州地方整備局/鶴田ダム管理所)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム① -



これまでの実施スケジュール（抜粋）	
モデル地区採択（令和元年7月） ■ 令和元年度 ・（9月）現地協議会の実施 ※第1回 ・（11月）ファムツアーの実施 ・（2月）現地協議会の実施 ■ 令和2年度 ・（11月）モニターツアーの実施 ・（2月）現地協議会の実施	■ 令和3年度 水害対応により取組休止 ■ 令和4年度 ・（10月）関係者会議 ※有識者委員同行 ・（12月）大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者会議 ※第1回 ・（2月）関係者会議 ※有識者委員同行 ・（2月）大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者会議

これまでの取組	
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> ダム見学の有料化を検討、ガイド等の人件費を捻出できるよう事業モデルへの移行を検討 周辺の学校や個人をターゲットに設定予定
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> さつま町を占有主体とした、新たな体制へ移行を検討中（当面はダム貯蔵焼酎の販売・管理での利用） 上記に付随し鶴田ダム及び大鶴湖の一部を都市地域再生区域に申請予定 これまでのダム見学を、土日受入が可能な要員配置や予約販売方法を検討中
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> 大鶴湖の遊覧船や川内川第一発電所、曾木の滝等を組み入れた見学プランを検討中 近隣のNPO、ゆうゆう館スタッフをガイドとして起用し上記プランに随行させる予定
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> 九州観光素材商談会（九州観光推進機構主催）に参加、旅行会社向けの情報発信を実施

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム④ -

体験会の有料化に向けた検討の経緯

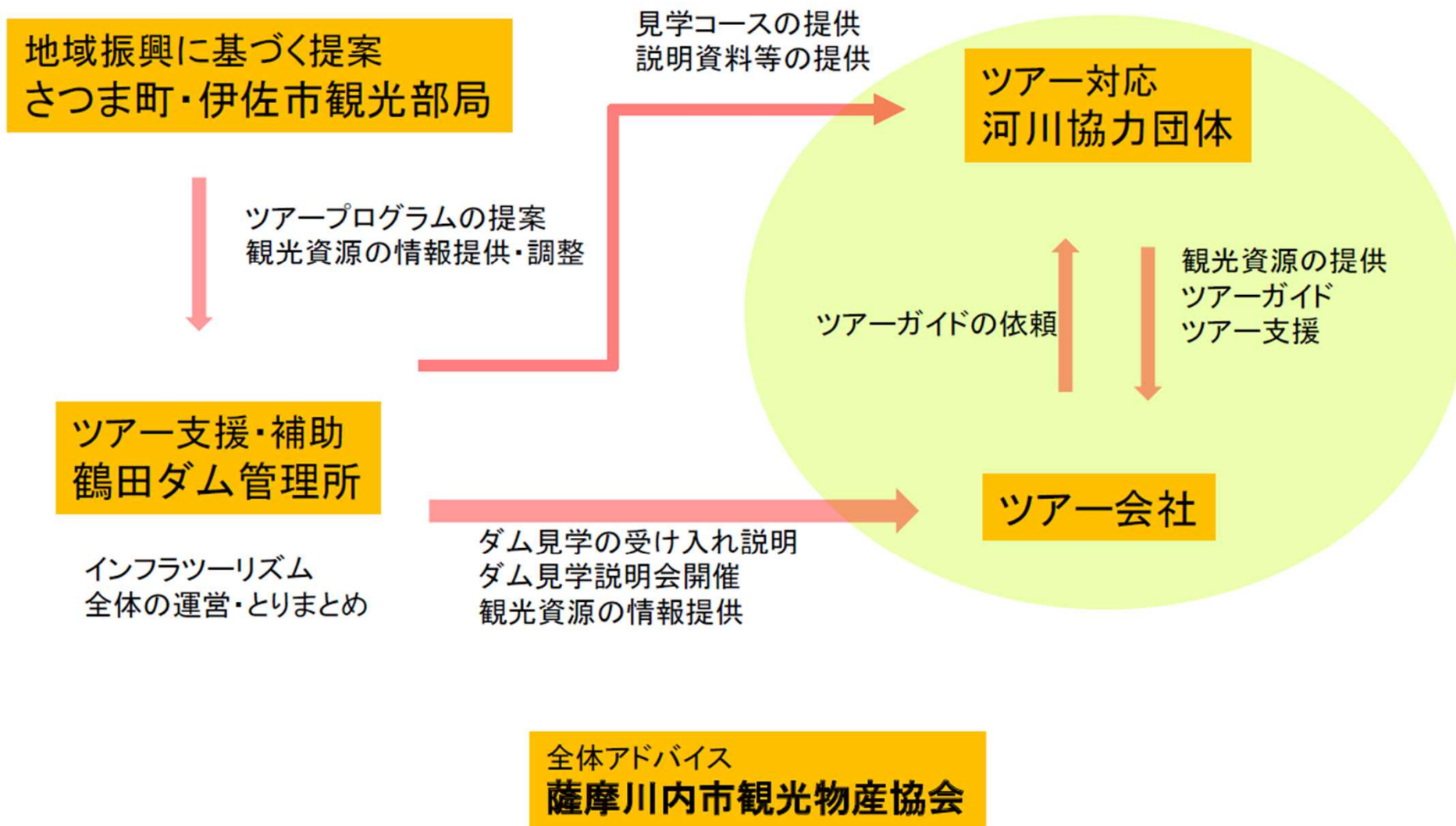
永続的な地域と連携した観光地域づくりに向けて、ダム見学について、休日における運営体制の確立、民間ガイド体制の構築、継続的な運営ができるようダム見学の有料化、都市地域再生利用区域の設定をインフラツーリズムの一環として進めることを大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者間にて合意形成。

コンテンツの有料化に向けた具体的な検討事項は以下の通り。

体制構築（河川空間のオープン化を含む）	コンテンツ造成	受入環境整備
<ul style="list-style-type: none">✓ 鶴田ダム及び大鶴湖（ダム湖）周辺関係者による役割分担<ul style="list-style-type: none">• 地域のNPOによるツアー/コンテンツの運営を見据え、各組織（管理事務所や自治体等）の役割を明確化✓ 河川空間のオープン化を見据えた体制構築<ul style="list-style-type: none">• 鹿児島県さつま町を占有主体とし、地域NPOを河川協力団体とする形で整理• 今後、ダム見学の有料化や見学以外のダムの活用を見据え、河川法準則に則った体制構築を行う予定	<ul style="list-style-type: none">✓ ダム見学の有料化<ul style="list-style-type: none">• コンテンツの運営やガイドとして協力いただくNPOの謝金捻出のため見学500円/見学＋ダムカレーのセットを1,000円で販売する形でコンテンツの検討• 個人客が多いという昨今の観光ニーズに対応するため、各観光素材の単品売りを基本とする• 鶴田ダム周辺観光地（曾木の滝、北薩公園等）とは、モデルコースとしてゆるやかな連携をする方針• 地域固有のホタル舟（5月下旬）、遊覧船（11月頃）、点検放流（11月頃）等の特別なイベント時には、鶴田ダム見学とのコラボを検討。特に遊覧船の運営について次の目玉として具現化を進める	<ul style="list-style-type: none">✓ ダム見学の休日受入<ul style="list-style-type: none">• 個人客の利用が多い現状より、予約制ではあるものの、休日対応を行う• これまでは土木広報として平日のみ職員による見学者対応をしていたものの、地域NPO等との協力により休日対応を実現する

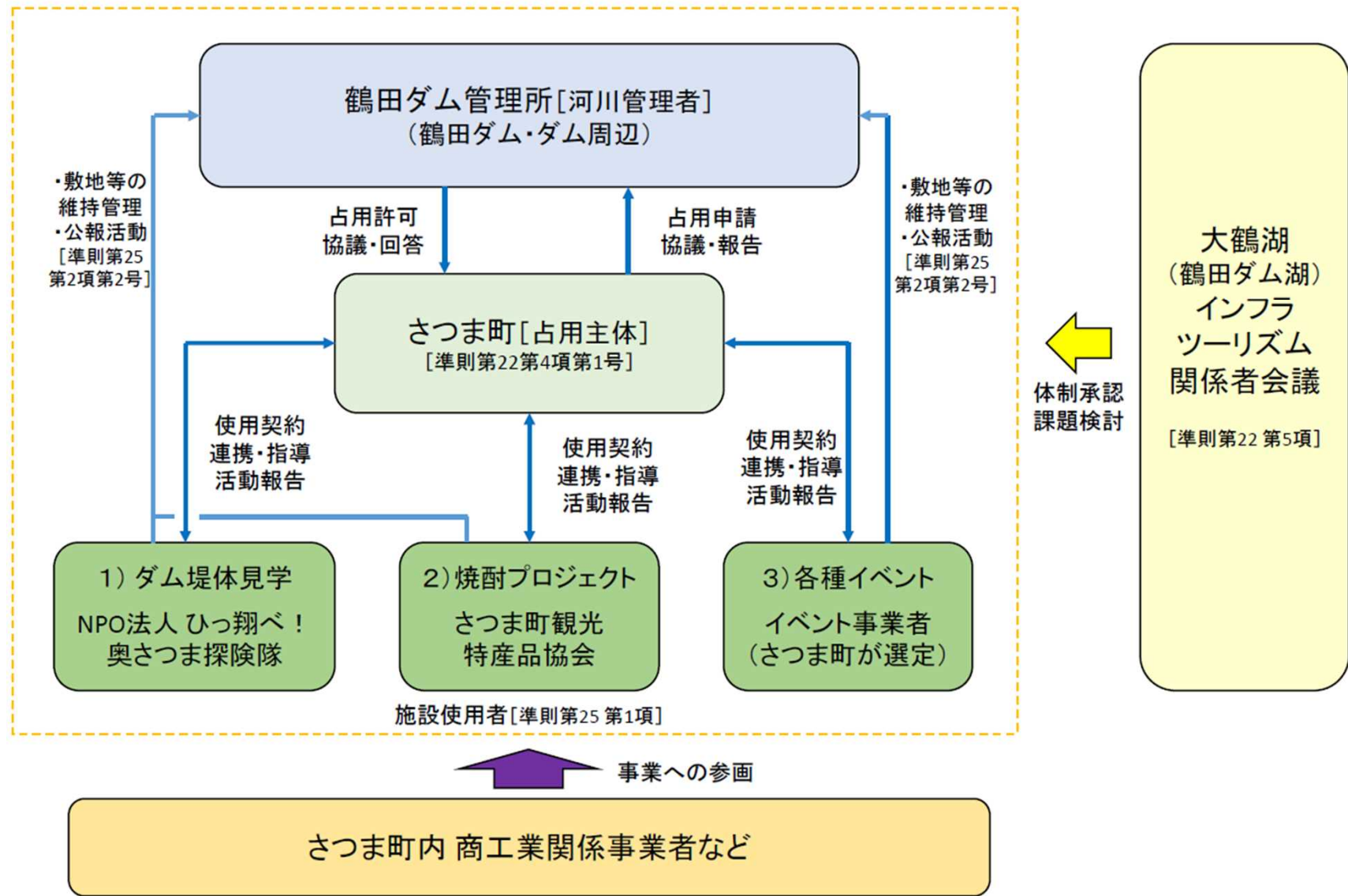
1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム⑤ -

鶴田ダム及び大鶴湖（ダム湖）周辺関係者による役割分担イメージ



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム⑥ -

河川のオープン化を見据えた体制構築



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム⑦ -

令和5年度 有料見学ツアー(案)

- 実施主体:さつま町「川内川大鶴ゆうゆう館」の管理事業にて実施
 - ・指定管理者:NPOひっ翔べ! 奥さつま探検隊※サポート:鶴田ダム管理所

- 見学日時:平日及び第2、第4日曜日
 - ・午前:11:00~12:00
 - ・午後:14:00~15:00※約1時間

- 予約:NPOひっ翔べ! 奥さつま探検隊ホームページより予約

- 集合場所:鹿児島県さつま町神子3988-2大鶴ゆうゆう館前

- 料金:1)見学のみ500円/1名 ※子供(高校生以下)は無料。大人同伴が条件。
2)ダムカレー付見学1000円/1名(ダムカレー通常800円)
※子供は、ゆうゆう館での食事代は有料となります。

- 案内ガイド:大鶴ゆうゆう館スタッフ(NPOひっ翔べ! 奥さつま探検隊)が案内。
※当面鶴田ダム管理所職員1名が同伴。

- その他:学校関係の社会科見学は、これまでどおり無料(平日のみ。見学時間も希望を受け付け)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鶴田ダム⑧ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理者、関係組織が過度な負担にならない持続的な事業モデルの検討を行う必要がある 	<p><持続的な事業モデルの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> 鶴田ダム及び周辺地域が関係者合意のもと、持続性のある事業モデルを確立する必要がある
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 今後の旅行商品として販売する際に必要な、旅行業登録がされている事業者との連携体制の構築が未整備 個人客が利用しやすく、かつ施設管理者の負担とならない予約受付方法を検討中 	<p><予約・管理方法の確立></p> <ul style="list-style-type: none"> 首都圏外郭放水路の予約管理システムのような、利用者には空き状況（催行状況）を、管理者にとっては予約者数を把握できる、双方にとって利用しやすい予約・管理方法を確立する必要がある
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> ガイドを担う要員の不足。地域のNPO法人等と協力し、無理のない運用方法を確立する必要がある 見学の有料化に伴い、体験価値を向上させる工夫が必要である 	<p><周辺ガイド協会との連携の模索></p> <ul style="list-style-type: none"> 既存組織との連携は尊重しつつ、ボランティアガイド等他の組織との連携を模索し、ガイド要員の確保に努める必要がある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットに設定している個人客向けに、特に情報発信を強化する必要がある 	<p><OTAの活用/情報発信強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 情報発信方法が多岐にわたるものの、費用対効果を測りにくい個人客において、例えば宿泊等の予約者に対しての宿泊施設周辺の地域の食事や体験についてのレコメンド機能を有するOTAの活用を検討しても良い 個人客に対して情報発信を強化する必要がある

<総括>

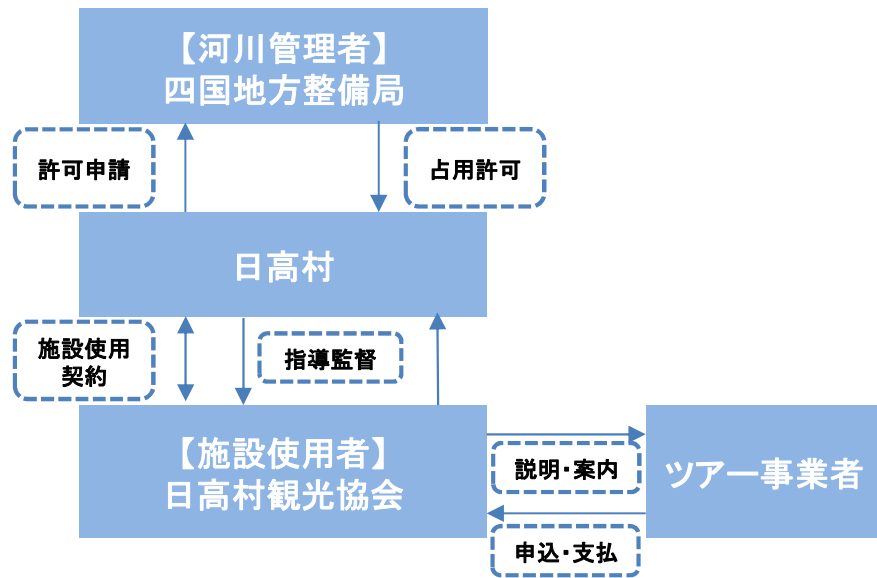
✓ インフラツーリズムの拡大に向けた事業モデルの確立

- R5年度より開始する見学の有料化に伴い、有料の価値に見合った“質”となるようなコンテンツの磨き上げを行うと共に、検討している新たな事業体制を盤石なものとする必要がある
- 事業の進め方は、有料ツアーの着実な積み上げ、様々な体験コンテンツを育て、運営の拡大を図っていく必要がある。

**日下川新規放水路
(四国地方整備局/高知河川国道事務所)**

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 日下川新規放水路① -

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

モデル地区採択（令和2年8月）

- 令和2年度
 - ・（12月）現地協議会の実施 ※第1回
 - ・（2月）ファムツアー（延期）
- 令和3年度
 - ・（5月）ファムツアー（延期）
 - ・（8月）ファムツアー（延期）
 - ・（9月）webファムツアー意見交換会
 - ・（12月）現地協議会の実施
 - ・（2月）ファムツアー（中止）

- 令和4年度
 - ・（8月）ガイド研修の実施
 - ・（10月）利用（施工中）に関する覚書を締結
 - ・（2月）現地協議会の実施

これまでの取組

① 戦略策定

- ・ 元々受入の素地があった教育旅行をターゲットに設定することで関係者合意
- ・ 放水路のコンセプトを関係者間で協議・決定（「巨大な水のトンネルは、未来へのトビラ。」）

② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備

- ・ 日高村を占用主体とした河川空間のオープン化に向け、法手続きを実施中
- ・ 試験運用として「日下川新規放水路（施工中）の利用に関する覚書」を高知河川国道事務所、日高村、工事施工者の3者で締結
- ・ 観光客が当日予約が出来るような窓口、体制を検討中

③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備

- ・ ガイド研修を実施し、顧客動線や事前学習ツールや動画等の整備の必要性を認識
- ・ 仁淀川流域の魅力や日高村の水害の歴史を発信・体感する場として、映像技術を活用出来ないか検討中

④ 対外的な発信 情報発信/販路構築

- ・ 令和3年、令和4年に実施された仁淀ブルー体験博にて販売

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 日下川新規放水路② -

◆教育旅行向け資料の作成

項目	内容
作成目的	<ul style="list-style-type: none"> インフラツーリズム呼び込みのためツールを作成することで誘客に向けた営業を加速させる これまで議論した内容を整理し、議論/資料の整理不足部分を明確化する
資料のターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社(高知県内) バス会社(高知県内※旅行会社を有する企業のみ) 学校(高知市及び周辺市町村の小学校・中学校向け)

記載項目	記載内容/検討項目
表紙	<ul style="list-style-type: none"> テーマ性のあるタイトルやキャッチコピー(検討中)
裏表紙	<ul style="list-style-type: none"> 日下川新規放水路の紹介 緊急時の体制 アクセス(バス、飛行機、電車利用の場合で整理) 問い合わせ先
中面(左上)	<ul style="list-style-type: none"> 日下川新規放水路で身につく力
中面(左下)	<ul style="list-style-type: none"> 日高村で学べること
中面(右上)	<ul style="list-style-type: none"> 周辺観光スポットの紹介
中面(右下)	<ul style="list-style-type: none"> モデルコース案(防災学習/環境学習/歴史学習)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 日下川新規放水路③ -

◆教育旅行向け資料の作成

<p>裏表紙</p> <p>＜日下川新規放水路＞</p> <p>日下川の低平地帯は、全体として地盤が低く、地震や洪水の影響で地盤沈下も生じてきました。そのために神母樋門^{※1}や日下川放水路^{※2}、調整池^{※3}などを整備してきました。しかし平成26年8月に2度も大きな台風に見舞われ、床上浸水127戸、床下浸水97戸の甚大な被害が発生しました。その教訓を基に将来の被害を軽減するため、総延長5.3kmの日下川新規放水路トンネルの整備が始まりました。</p> <p>※1 樋門は、河川に水頭を仕切る門のこと。流水中に水の逆流を防ぐ役割がある ※2 放水路は、河川の途中から新しく人工的に開削し、直接海または他の河川に放流する水路のこと ※3 調整池は、雨水を一時的に貯めて河川の排水量を調節する池のこと</p> 	<p>表紙</p> <p>写真</p> <div style="text-align: center;"> <p>「タイトル」 日下川新規放水路見学における コンセプト/キャッチコピー等</p> <p>(例)</p> <p>—巨大な水のトンネルは、未来へのとびら— 水と共に生きる村 水害の歴史と、水と共に生きてきた、この地域の「Life」</p> </div>	<p>＜日下川新規放水路で身につく力＞</p> <p>「理解する力」 日高村の歴史は水害との歴史。内陸地であっても水害で苦しんでいる地域があり、住民が、地域が、国がしてきた戦いや創意工夫を知ることで、人間の知恵を肌で感じることが出来ます。</p> <p>「想像する力」 もしも日下川新規放水路がなかったら、交通麻痺、物流のストップ、住居倒壊・・・今ある生活は当たり前ではない。自身の地域や環境を顧み、日常生活を考え直すきっかけになります。</p> <p>「探求する力」 放水路のトンネル側壁部の作業坑にはCO2を最大限吸収するコンクリート技術を採用しています。工業系分野でも脱炭素社会を目指し、技術開発が進んでいる現状を知り、他にどのような技術があるのか考えるきっかけになります。</p> <p>日高村で学べること</p> <p>「防災学習」 日高村では、高知県内で唯一、水を「とめる」「ためる」「ながす」を一つの村で体験することが出来ます。有史以来、地理的に浸水しやすいこの地域では、仁淀川下流域の利水事業に伴い、さらに水害が頻発するようになりまし。水と戦い、水と共に生きてきた300年を超える歴史を通して、災害が頻発する今日、防災意識の大切さを学びます。</p> <p>「環境学習」 日高村は、度重なる災害対応としての施設整備だけでなく、豊かな生態系を育くむ自然や環境の保全を同時に行ってきました。地域資源の保全と持続可能な利活用を学びます。</p> <p>「歴史学習」 1400年を超える歴史を持つ小村神社、蛇紋岩地帯の特殊な植生の鏡山や、悠久の歴史を語る鏡山洞、人が夢でできた歴史を築く産業郷土資料館など、様々な歴史を学びます。</p>	<p>中間(左)</p>  <p>中間(右)</p> <p>「神母樋門」 日下川と仁淀川の合流点で幾度も大水と人間の攻防が繰り返されてきました。仁淀川からの逆流を防ぐため、現在の神母樋門は昭和62年に完成しました。</p> <p>「鏡山公園」 行は蛇紋岩地帯で珍しい植物も多く、秋にはドウタンツツシの紅葉と山が輝く秋の情景が楽しめます。公園には「鏡山」と名づけられました。公園には広場、トイレ、展望台などが整備されています。</p> <p>「日下川/戸根川調整池」 洪水時に「ためる」役割を果たす調整池が村内に2か所あり、合わせて東京チームの約2万の水量を貯めることができます。特に日下川調整池の周辺には豊かな自然環境が広がり、季節の動物観察も楽しめます。</p> <p>「鏡山洞」 はるか昔の火山の噴火で出来た石灰岩が何億年もかけて地上に現れ、さらに何万年も水の力を受けて現在の鍾乳洞の形になりました。</p> <p>【モデルコース】※リクエストに応じて行程を変更します。</p> <p>ご提案1【防災学習～日本最長級の放水路を特別公開】 行程例①放水路現場集合/解散～既設&新規放水路のガイド見学、トンネル内の壁面を使用した投影説明(所要時間約1～2時間) 令和5年6月に通水が行われる新規放水路。通常立ち入り禁止の放水路トンネル内をガイドが案内し、巨大な構造物の迫力を間近で感じながら、トンネルに直接投影した映像を見て、水害との闘い・治水の歴史を体感します。 行程例②「ためる」神母樋門-「ながす」日下川新規放水路トンネル-「とめる」日下川調整池(所要時間約2時間30分～5時間) 日高村には、とめる「樋門」・ためる「調整池」・ながす「放水路トンネル」が全てあります。治水の三要素をコンパクトに見学することで、一度に治水事業や防災学習への深い理解に繋げることが出来ます。</p> <p>ご提案2【環境学習～14ヘクタールの広大な調整池で生態系のフィールド学習】 行程例) 日高村総合運動公園集合/解散～自然学習レクチャー&フィールドワーク(野鳥観察/植物観察/昆虫観察等)(所要時間約1～2時間) 『ためる』設備の一つである日下川調整池では、親水公園的な役割も持っており、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選ばれています。調整池周辺で見られる生き物(鳥や植物、昆虫など)についてのレクチャーを受け、広大なフィールドを利用した実地学習により、環境や生態系について学びます。</p> <p>ご提案3【歴史学習～地球と人の営みの歴史を学ぶ 鏡山洞 & 産業郷土資料館】 行程例) 産業郷土資料館集合/解散～歴史レクチャー&資料館見学～鏡山洞(鏡山洞見学/鍾乳洞見学)(所要時間約1～2.5時間) 鏡山洞の近くには産業郷土資料館があり、産業や生活で使用した道具や文化遺産が約三百点収蔵されています。このエリアでは鏡山洞の石灰岩・鍾乳石の形成など、地球規模の悠久な歴史と、人が刻んだ歴史について学ぶことができます。洞窟前の見学から、チームビルディングを兼ねた本格的な洞窟探検まで設定可能です。</p>
<p>＜緊急時の体制＞</p> <p>体制図</p>			
<p>＜アクセス＞</p> <p>電車：J R土讃線高知駅より普通列車で30分(急行列車は止まりません) バス：高知自動車道のいのインターチェンジで降りて国道33号線を西に向かい走る約20分 飛行機：羽田空港～高知空港まで1時間20分～30分 伊丹空港～高知空港まで45～50分 福岡空港～高知空港まで約50～55分</p>			
<p>＜緊急連絡先一覧＞</p> <p>【仁淀病院】 吾川郡いの町1369/088-893-1551/車で10分 【土佐警察署日高駐在所】 高岡郡日高村本郷258-6/0889-24-4110/車で2分 【仁淀消防日高分署】 高岡郡日高村本郷200-8/0889-24-5411/車で1分</p>			
<p>＜問い合わせ先＞ 日高村観光協会 住所：高岡郡日高村本郷1478-9 電話番号：0889-24-5888</p>			

＜今後の作成スケジュールや活用イメージ＞

- デザインを入れ完成イメージのすり合わせを行い、6月の通水後に記載内容の最終調整を実施
- 日高村にも意見聴取をすることで、教育旅行の誘致資料として内容の整合性をはかる
- 旅行会社からR5年度以降の問い合わせが増加しているため、この資料を基にタリフ作成を並行して作成予定

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 日下川新規放水路④ -

◆現地協議会の開催(令和5年2月20日)

実施日:2023年2月20日(月)

参加者:日高村村長、日高村副村長、日高村、日高村商工会、日高村観光協会、仁淀ブルー観光協議会、高知県仁淀川地域本部、四国地方整備局、高知河川国道事務所、有識者委員(河野まゆ子氏)、JTB(司会)

<議事要旨(有識者委員からの意見)>

- 既設放水路は大人の受入の可能性はあるが、手すりの強化やネットの敷設が必要である
- 新規放水路に入る前に、動画を流す等参加者へのインプットがあると良い。それによりコンテンツの統一感を出せると思われる。コンテンツの導入をすることが大切だ
- 各取組の連動性を持たせるため、ガイドマニュアルやシナリオとコンテンツ、学習教材はまとめて検討したほうが良い
- 活用や整備の方向性を取りまとめる意見調整役が必要である
- ターゲット別に訴求価値の出し方を複数検討をする必要があり、教育旅行を基盤に大人/視察向け等のコンテンツを発展させていくのがよい
- 収益化に向けては、大人(一般/視察)のコンテンツを造成し、適正価格を想定しつつ、最初から少しでも料金を徴収した方がよい



既設放水路の視察



新規放水路内の説明
(トンネル内で動画を用いた説明をうける)



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 日下川新規放水路⑤ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 事業目標や実現したいゴールイメージが関係者間で統一できていない 	<p><事業スケジュール・取組内容の再整理></p> <ul style="list-style-type: none"> 各組織で個々で実施している取組を取りまとめ、取組の優先順位を決める必要がある 相互に関連のある取組を同一時期に行い、効率的な推進をはかる
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> レセプション機能としての導入コンテンツが未整備である 新規放水路とセットでコンテンツ造成を検討する既設放水路は手すりの強化やネットの敷設を施す必要がある 	<p><導入コンテンツの整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ハード整備に先がけて、ガイドシナリオや動画を作成する必要がある。ガイドシナリオの整備により、均質化と要員確保が期待できる
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> 収益化に直結する一般（大人/視察）向けのコンテンツ造成の検討が必要である ガイド要員の不足 	<p><提供価値の磨き上げ></p> <ul style="list-style-type: none"> デジタルとリアル（人からの説明）の役割分担を行い、専門性の補完や人的配置を検討する必要がある シルバー人材の登用や国の制度の活用など引き続き検討を進める必要がある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> 商品コンテンツに関する情報発信は発展途上である 継続的に販売可能な体制が構築できていない 	<p><情報発信強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 一般旅行者向けに情報発信を強化し、施設自体を認知される場をつくる 情報発信と併せ、その場で申込が出来る窓口を作ることが出来るとなお良い

<総括>

✓ 既存の取組の優先順位付け/一般向け商品コンテンツに発展

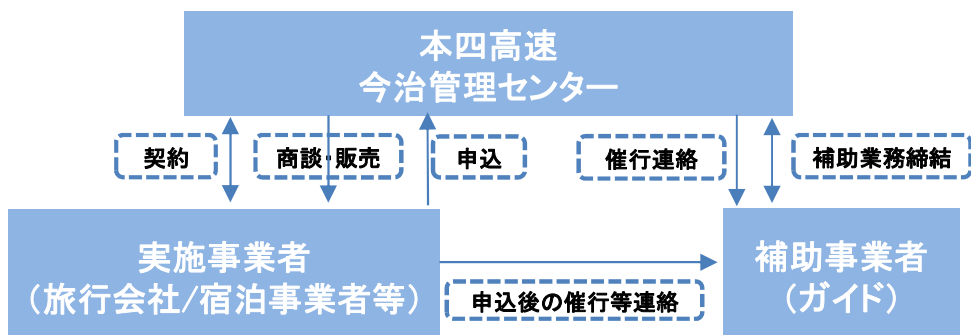
- 各組織の強みを活かし取組を省力化・効率化させ、教育旅行を基盤として一般向けに発展させる必要がある
- 河川空間のオープン化やまちづくり公園の整備等、長期的計画を見据えつつ、先ずは核となる放水路単体のコンテンツの整備から取り組む必要がある

**来島海峡大橋
(四国地方整備局/本州四国高速道路(株))**

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 来島海峡大橋① -

体制・運営スキーム

来島海峡大橋 インフラツーリズム推進会議
 (今治市/今治地方観光協会/DMO/愛媛県/四国地整/本四高速)
 実施方針決定・実施報告検証



これまでの実施スケジュール

モデル地区採択 (令和元年7月)

- 令和元年度
 - (11月) 現地協議会の実施 ※第1回
 - (11月) ファムツアーの実施
 - (2月) 現地協議会の開催
- 令和2年度
 - (9~11月) 検証ツアーの実施
 - (12月) 推進会議の設立
 - (~3月) 検証ツアーの結果取りまとめ

- 令和3年度
 - (10~12月) モデル事業によるツアー実施
 - (11~1月) モデル事業によるツアーの結果取りまとめ
 - (~3月) 検証ツアーの結果取りまとめ
- 令和4年度
 - (4~6月) モデル事業によるツアー実施
 - (10~11月) モデル事業によるツアー実施

これまでの取組

① 戦略策定

- インフラツアーの事業化を見据え、個人枠の導入検証を実施予定
- 家族層の取込を狙い、年齢制限の引き下げ及び予約受付期間の長期化を模索中

② 事業基盤の構築

体制構築/受入環境整備

- 備品や設備面での安全管理対策は万全に取られている
- 会議体が組成されており、キーパーソン主導による推進会議の運営が出来ている

③ 提供商品の造成

コンテンツ造成/ガイド整備

- 民間旅行会社が参画し、高単価な橋巡りツアーやブリッジマリッジクルーズ等のテーマ性の高い商品を造成
- 元愛媛県職員をガイドとして派遣できるように体制を整え、塔頂体験ツアーを実施

④ 対外的な発信

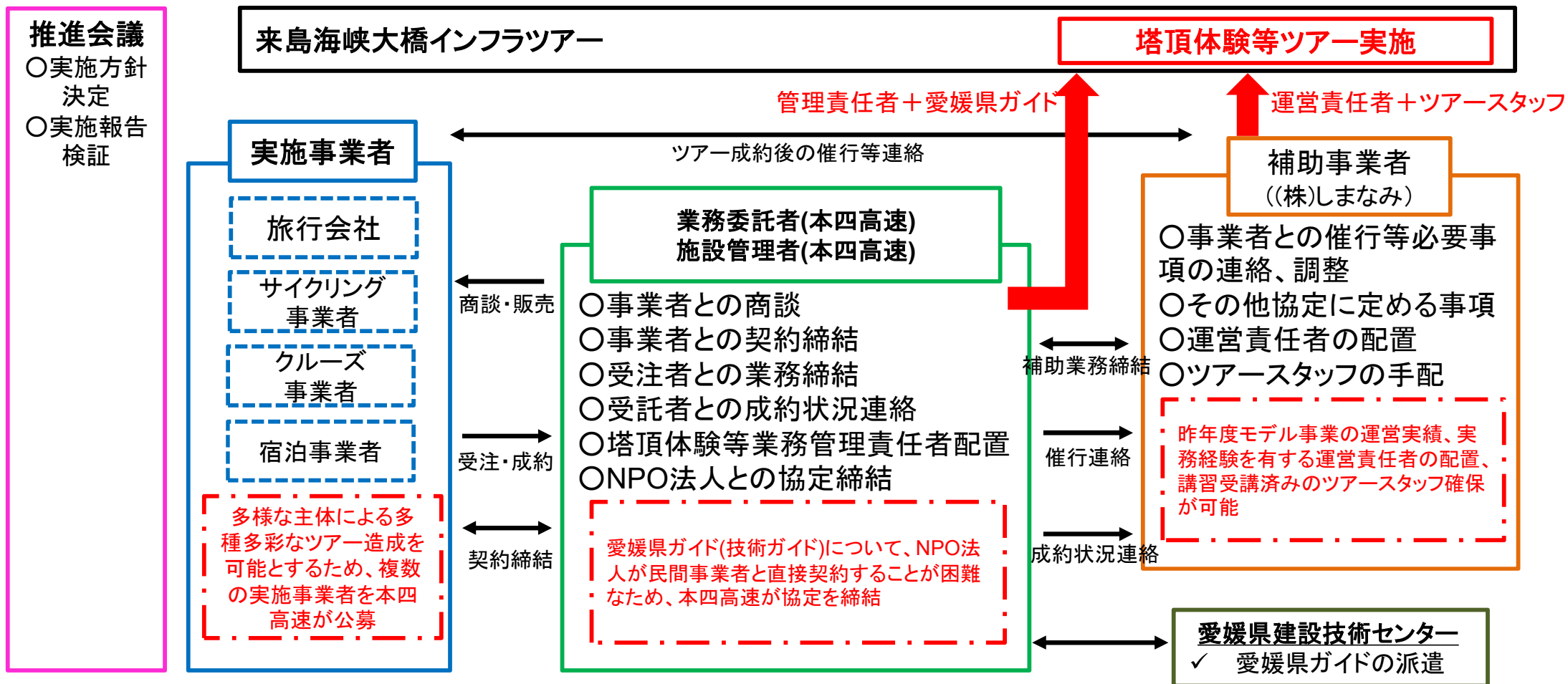
情報発信/販路構築

- コロナ禍で情報発信を控えていたが、本四高速のHP等にて情報発信を継続
- 専用の予約サイトは未整備で、補助事業者が連絡調整を実施

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 来島海峡大橋② -

◆ モデル事業実施結果

＜業務実施体制＞



＜ツアー日程＞

令和4年度は4～6月、10～11月で実施 ※7～9月は熱中症対策のため未実施

＜催行率＞()内は可能数

- ・ ツアー実施日数 : 6日(販売 66日) 9%
- ・ ツアー実施本数 : 6本(販売 87本) 7%
- ・ 参加人員 : 61人(販売 1,566人) 4%

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 来島海峡大橋③ -

◆ R4年度に実施したツアー

10月22日 「ブリッジマリッジクルーズ」 9名/18名

ようみいきいき館～馬島→【来島海峡大橋8P主塔登頂】→ 馬島 ~~~~~ ようみいきいき館



11月12日、19日 「橋マニアになろう！しまなみ橋巡りツアー」 6名/14名

瀬戸田港集合 → サイクリング 約10km(E-BIKE) → ランチ → クルージング 多々羅大橋～大三島橋～伯方橋～大島大橋海上見学
→ 馬島上陸 来島海峡大橋塔頂体験 → 解散



事前Webセミナー



多々羅大橋
サイクリング



クルージング
大三島～馬島港



来島海峡大橋塔頂

11月 (株)しまなみ「来島海峡急流観潮船&来島海峡大橋塔頂ツアー」 2回/32名

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 来島海峡大橋④ -

◆ 現地意見交換の実施

日程: 令和5年2月7日

参加者: 本四高速、本四高速 今治管理センター、(株)しまなみ、本省、JTB

<意見交換で明確化された課題と対策(案)>

課題	対策(案)
ツアー料金が高額である	ツアー単体で収益性を考えず、ツアー以外で支出する機会を創出する。 体験者の7割以上が県内又は近隣県からの来訪のため(2021アンケートデータ参照)、遠方からの誘客を狙うことで、物販や飲食でお金を落とす仕組みを作る。
ツアーの催行人数が定員に対し少ない。 その結果補助事業者は申込者1名1名に電話をかけ、申込日を変更するように依頼をしている。	催行日を限定的にすることで、申込の段階から定員に近い参加者数が集まるようにする。
当日にキャンセルする人が一定数存在する	予約時に決済まで完了させるよう決済システムを整備し、当日キャンセルの割合を下げる。

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 来島海峡大橋⑤ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 会議体で決定された数値目標及び今後の展開が関係者に共有されている 	-
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 体験場所への輸送方法が限られている 年齢制限があるため家族連れ等の顧客を取り込めていない 	<体験場所へのアクセス整備と体験中のハード整備> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民を巻き込むことによる解決方法を検討する必要がある ハード整備で安全管理と両立する年齢制限の引き下げ策がないか継続して検討する必要がある
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> 安全確保のため複数の要員を配置しなければならず、ツアー単価が高くなってしまふ 	<収益化に向けた高単価商品の造成> <ul style="list-style-type: none"> 塔頂体験のみではなく、旅行商品の一部として体験費用を盛り込めるよう、商品造成が必要である 安全管理と両立した1回あたりの催行人員数の増加や客単価向上に資する高付加価値商品の造成を引き続き検討する必要がある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> 専用の予約サイトが未整備であり、申込から予約完了までタイムラグがある 集客にあたりプロモーション手法の見直しが必要 	<ユーザー体験の向上とプロモーションの強化> <ul style="list-style-type: none"> オンライン上で予約申込が完結するwebシステムを整備し、決済機能まで付加することで催行率の増加に繋げることが出来ると良い プロモーションを強化するには行政への働きかけが重要である OTAの導入も検討

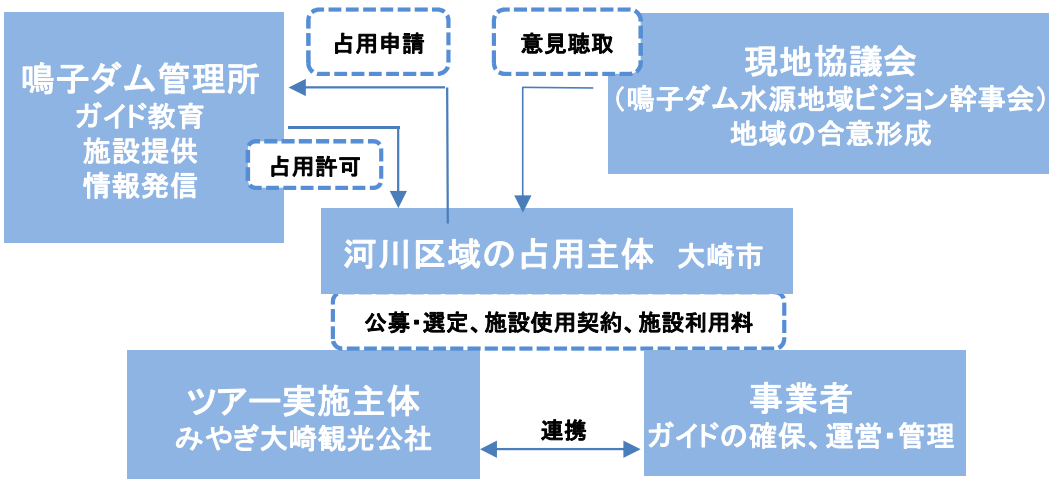
<総括>

- ✓ 過年度の取組の成果と事業基盤を活かした、引き続きの事業を進める
 - 過年度の取組の成果と反省が今後の方策に活かされており、推進体制が構築されている
 - 更なる発展のため、ボランティアガイド活用によるツアー単価引き下げ、催行率が高い個人枠の導入、OTAの導入などの検討を今後進める

鳴子ダム
(東北地方整備局/鳴子ダム管理所)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鳴子ダム① -

体制・運営スキーム(河川空間のオープン化)



これまでの実施スケジュール(抜粋)

モデル地区採択 (令和元年7月)

- 令和元年度
 - ・ (11月) 現地協議会の実施 ※第1回目
 - ・ (11月) ファムツアーの実施
 - ・ (2月) 現地協議会の実施
- 令和2年度
 - ・ (8月) 現地協議会の実施
 - ・ (10~11月) モニターツアーの実施 計4回
 - ・ (3月) 現地協議会の実施

- 令和3年度
 - ・ 民間事業者によるツアーの企画/販売
 - ・ (1月) 現地協議会の実施
- 令和4年度
 - ・ 自走化に向けて実施方針等を協議

これまでの取組

① 戦略策定

- ・ 地域の資源や現状と相性が良い、ターゲットの設定を行った (首都圏/高所得者、もしくは小・中学生向け/インバウンド)
- ・ 地域での自走化を見据えた商品内容、販売方法を検討

② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備

- ・ みやぎ大崎観光公社 (地域DMO) を中心としたツアー運営体制を構築
- ・ 「河川空間のオープン化」の活用に向けた課題点の整理を行っている
- ・ インバウンドの受入に向けてダム施設案内等の多言語化の実施を検討

③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備

- ・ ライトアップやインクラインを活用したコンテンツの造成
- ・ ライトアップやインクラインを活用した商品の販売を開始
- ・ 地域での自走化を見据えた商品内容、販売方法を検討

④ 対外的な発信 情報発信/販路構築

- ・ プロモーション戦略/販売窓口を検討
- ・ 大崎観光公社 (DMO) によるツアー商品の企画・販売を開始

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鳴子ダム② -

◆R4年に実施したツアー(実施主体:みやぎ大崎観光公社)

2022 鳴子ダム直下見学ツアー

参加者に
鳴子ダムカード
プレゼント!

鳴子ダムのすたれ放流実施。および期間は3月時点で未定です。また新型コロナウイルスの感染拡大状況により実施が決定した後も変更になる場合があります。本ツアー出発日にすたれ放流が実施される場合はすたれ放流の見学、実施されない場合は堤体の直下まで入りダムに触れる体験をします。

ガイドと歩くイヤホンガイド利用で案内が深くわかる!
2022年 5月1日(日) 5日(土)

ノルディックウォーキングツアー

旅行代金 2,000円

無料レンタル
ノルディックポール・イヤホンガイド

スケジュール

日次	スケジュール
1	最終鳴子橋下集合・受付 9:50 ~ 準備体操 ~ 出発 10:10 ... (ガイド同行で片道約 3km) ... 鳴子ダム直下 ... 最終鳴子橋下 12:00~12:30 着予定 添乗員: なし(現地係員対応) ガイド: 同行 食事: なし 最少催行人員: 10名

バスツアー 2022年 5月2日(日) 3日(月) 4日(火)

旅行代金 2,500円

無料レンタル
ノルディックポール・イヤホンガイド

スケジュール

日次	スケジュール
1	鳴子公園(9:40・10:30・11:20) / 鳴子温泉駅前(9:40) = 江合川合出 ... (ガイド同行で片道約 1.2km 希望の方はノルディックウォーキング体験もできます) ... 鳴子ダム直下 ... 鳴子公園(11:10・12:50・15:00) / 鳴子温泉駅前

限定1組抽選販売 3月26日(土)~28日(月)3日間限定受付 3月30日(水)抽選

2日間

鳴子ダム堤体見学ツアー

2022年 5月1日(日)

旅行代金 35,000円

2~3名様1室 ※1名様1室は10,000円増し

選べる発着地○鳴子温泉駅又は東鳴子温泉旅館大沼

スケジュール

日次	スケジュール
1	鳴子温泉駅又は旅館大沼 13:30 = 観光タクシーで鳴子観光フリープラン(鳴子温泉在住のドライバーと当日相談して決めることができます。例:鳴子ダム、鬼首、温泉などの約1時間30分) = 東鳴子温泉泊 15:00
2	旅館 9:40 = 鳴子ダム(たっぷり2時間見学) = 鳴子温泉駅又は旅館大沼 12:15 添乗員: なし タクシー: 中山平タクシー 宿泊: 東鳴子温泉 旅館大沼 食事: 朝1回・夕1回 最少催行人員: 1名 凡例 ※タクシー

①鳴子ダム職員による説明
②ダム操作室見学
③ダム展示室・本山隧道見学
④ダム築の眺望
⑤インクラインに乗って堤体内探検!
⑥ダムで貯蔵した日本酒『大和伝』1人1本付き※1
⑦ダムノート、ダムカード付き(1人1セット)
⑧絶景のお宿へ宿泊!
夕食はお部屋食&貸切露天風呂付
※地元在住ドライバーが観光タクシーで鳴子観光(1日目)
※ダムまで送迎付き(2日目)
※1 未成年のお客にはダムに所蔵した日本酒の代わりにソフトドリンクをご用意いたします。
販売 国土交通省東北整備局鳴子ダム管理所

第2弾 仙台・古川発

Oh! sakii いなか田舎で遊ぼう

～鳴子ダム見学とそば打ち体験・竹とんぼづくり～

Point

- Oh! 無人気分! 竹とんぼって自分で作れるんだ!
- Oh! そば打ち体験! 自分で打ったおそばってどんな味?
- Oh! ドキドキ! 鳴子ダムの裏側に潜入!
- Oh! 大人気! 全国道の駅グランプリ上位入賞。ら・伊達な道の駅に行ってみよう!
- Oh! Yay! こんなところに! 大崎市公式キャラクターバツ娘さん?!

10月11日(土)

旅行代金 9,800円 (大人・小人同額)

持参物: エプロン・三角巾

スケジュール

日次	スケジュール
1	仙台駅前8:00発 = 古川駅前9:00発 = 鶴田山 竹工製錬(竹とんぼづくり) = 尾野 レストラン スかむる(そば打ち体験・朝食) = 鳴子ダム(見学) = ら・ら・伊達な道の駅(休憩・お買い物) = 古川駅前 15:50 着 = 仙台駅前 17:00 着 ※おとんとんは竹とんぼ作り体験用です。おとんとんは別売です。 添乗員: 同行 食事: 昼1回 バス会社: 第一観光バス 最少催行人員: 14名

中止

治水の歴史や文化、食と絡めたコンテンツを企画
・参加条件にワクチン3回接種やPCR検査あり
・最小催行人員14名に満たないため中止



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鳴子ダム③ -

◆R4年に実施したダム湖面利用の体験会(実施主体:鳴子温泉もりたびの会)

鳴子ダムを活用した事例のご紹介



鳴子温泉もりたびの会

荒雄湖(鳴子ダム湖)でのパドルスポーツ体験プログラムを2023年度の販売開始に向けて試行中。

単体でのプログラム販売に加え、湯治文化×栗駒国定公園の自然×アクティビティを組み合わせた2泊3日のATツアー商品を造成。



湖面でワーケーションも!
*自己責任でお願いします



鳴子の自然と遊びに精通したガイド付き

ガイド所有資格例:

- ・パドルスポーツ国内資格 (JSPA BI)
- ・野外救急の国際資格 (WMTC WFR)
- ・自然利用の環境倫理 (LNT trainer)
- ・持続可能な観光 (GSTC STTP)



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 鳴子ダム④ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
① 戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 選定したターゲットに合わせ、コンテンツ造成や情報発信、販売窓口等の整備を行う必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> <事業の連動制の確認> 販売ターゲットのカスタマージャニーを意識し、各取組みの連動制の検証を行う必要がある
② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 「河川空間のオープン化」を活用した体制構築をする必要がある インバウンドに対応できるよう、ソフト/ハード両面での整備を進める必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> <事業体制の確立> オープン化を前提として、管理所/地域事業者がより高付加価値なコンテンツを提供できるような体制を確立する必要がある
③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットに合わせてコンテンツをカスタマイズする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> <コンテンツのバリエーション化> 設定したターゲットに合わせてニーズに合致するよう、商品のバリエーション化を図る必要がある
④ 対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットに合わせたプロモーション戦略及び地域として打ち出すストーリー性の検証を行う必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> <地域ストーリーと情報発信の連動> 地域特有の大崎耕土等の資源やそれに関わるストーリー性とコンテンツの価値を連動させると共に、情報発信において打ち出すイメージ（ブランドづくり）を連動させる必要がある

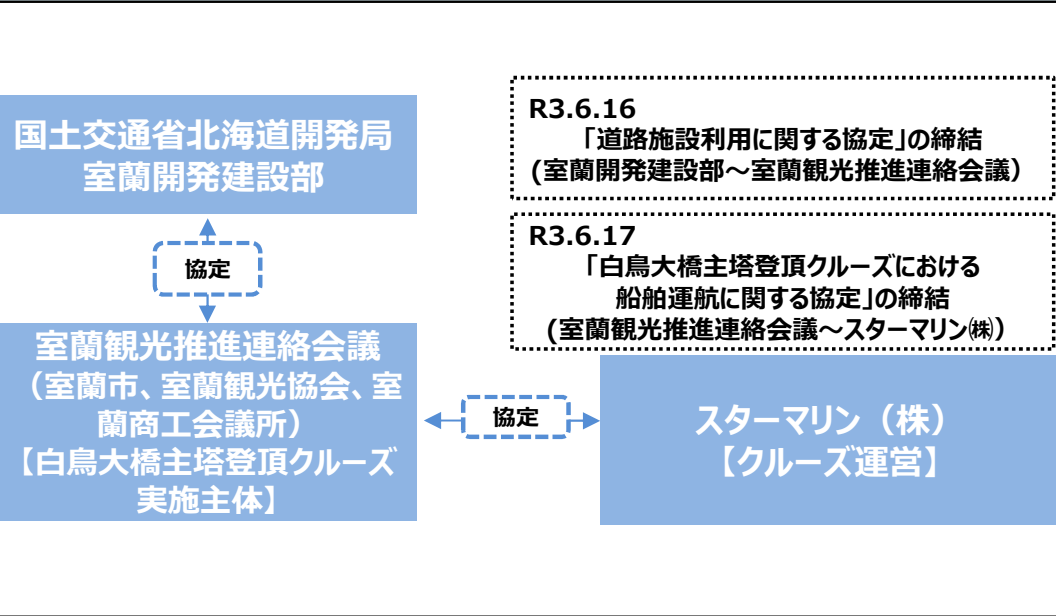
<総括>

- ✓ 鳴子ダム地区におけるインフラツーリズム事業の持続性の向上
 - 大崎観光公社によるツアー商品の企画・販売や「河川空間のオープン化」活用に向けた検討の開始等、自走化に向けた取り組みが進んでいる
 - ターゲットニーズに丁寧に応えていくことにより観光客から支持され、事業持続性の向上につながる

白鳥大橋
(北海道開発局/室蘭開発建設部)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 白鳥大橋① -

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール

モデル地区採択（令和2年8月）

- 令和2年度
 - ・（10月）現地協議会の実施 ※第一回
 - ・（3月）現地協議会の実施
- 令和3年度
 - ・（6月）協議会の実施
 - ・（6月）主塔登頂クルーズツアーの販売開始
 - ・（10月）一般向けモニターツアーの実施
 - ・（11～1月）モニターツアーの結果取りまとめ

- 令和4年度
 - ・（5～10月）モデル事業によるツアー実施
 - ・（9月）関係者協議
 - ・（1月）関係者協議
 - ・（1月）「白鳥大橋インフラツーリズム」シンポジウム開催

これまでの取組

<p>① 戦略策定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人客を対象に白鳥大橋の主塔登頂クルーズツアーを有料で販売 ・ 地域の気象条件上（強風等では運行/塔頂不可）、クルーズツアーの販売は春季～秋季に限られるため事業の収益性向上に向け、継続的に検討
<p>② 事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ クルーズを運行するスターマリン(株)を中心とした、コンテンツ運営や販売方法等に係る体制は構築済み ・ 室蘭市内においてもポルタ工房等と連携したツアーコースづくりを行っている
<p>③ 提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室蘭港周辺クルーズと白鳥大橋の主塔登頂を主としたコンテンツは造成済み。今後、バリエーション化や高付加価値化に向けた磨き上げを検討 ・ 地域ガイドが案内を行うための基礎となる、ガイドマニュアルは作成済み
<p>④ 対外的な発信 情報発信/販路構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ スターマリン(株)のウェブサイトによる情報発信や予約販売は実施されている ・ 特に都市圏の観光客を呼び込むための販路構築は継続的に検討

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 -白鳥大橋②-

◆ 白鳥大橋主塔登頂クルーズ

スターマリン(株)による白鳥大橋主塔登頂クルーズの運行を令和3年7月22日から開始
 ※運行期間4月～11月(催行状況:令和4年4月～11月 催行便数23便、乗客数190人)

○コース

標準プラン

お申し込み人数が5名以上の場合、運行

コース	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ (ハーフ)	大人5,000円 小人2,500円	約120分

催行確定プラン

お申し込み人数が5名以下の場合でも運行

コース	乗船人数	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ(ハーフ)	2名	大人12,500円 小人6,250円	約120分
	3名	大人8,300円 小人4,150円	
	4名	大人6,250円 小人3,150円	

5名以上の団体に乗船される方

コース	料金	所要時間
標準コース 白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ(ハーフ)	大人5,000円 小人2,500円	約120分
白鳥大橋主塔登頂のみ	大人4,000円 小人2,000円	約70分
白鳥大橋主塔登頂+港内クルーズ	大人6,000円 小人3,000円	約140分



※スターマリン(株)サイトより抜粋

https://star-marine.co.jp/cruise/hakuchoclimb_cruise.html

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 -白鳥大橋③-

「白鳥大橋インフラツーリズム」シンポジウム(R5.1.21)開催概要

○ 白鳥大橋インフラツーリズムをきっかけに、北海道観光がチャレンジしなくてはならない「地域が稼ぐ観光」、単独市町村ではなし得ない、本当の意味での「地域連携による広域観光」を考えるシンポジウムを開催。

- 日 時 令和5年1月21日(土) 10:00~12:30
- 会 場 エンルムマリーナ室蘭よりWEB配信
- 聴講者数 会場20名(行政関係者、観光関係者)、WEB 180名 合計200名

基調講演 観光庁における観光地域づくりの取組

観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課長 河南 正幸 氏

特別講演 広域観光を視野に入れた白鳥大橋のインフラツーリズム

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 准教授 篠原 靖 氏

パネルディスカッション

北海道観光の新たな幕開け！コロナ後の地域が稼げる観光地づくり



青山 剛
室蘭市長



小笠原春一
登別市長



菊谷秀吉
伊達市長

「北日本最大の吊り橋・絶景の白鳥大橋の観光資源化」
インフラツーリズム
魅力増進プロジェクト・シンポジウム
 ~アフターコロナ時代!室蘭・登別・伊達・豊浦・洞爺湖・壮瞥・白老の
 新たな価値を創造し、世界から選ばれる広域観光圏を目指して~

日時 2023/1/21(土) 10:00 ~ 12:30
 [オンライン接続 9:40より開始]

開催形式 WEB配信 [ZOOMウェビナー] エンルムマリーナ室蘭から配信します!

プログラム

- 10:00 開会挨拶
- 10:05 基調講演「観光庁における観光地域づくりの取組」
 観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課長 河南 正幸 氏
- 10:35 特別講演「広域観光を視野に入れた白鳥大橋のインフラツーリズム」
 跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 観光デザイン学科准教授 篠原 靖 氏
- 11:05 休憩 10分
- 11:15 パネルディスカッション
 「北海道観光の新たな幕開け!コロナ後の地域が稼げる観光地づくり」
 [コーディネーター] 篠原 靖 氏(跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 観光デザイン学科准教授)
 [パネリスト] 河南 正幸 氏(観光庁 観光地域振興部 観光地域振興課長)
 篠宮 豪浩 氏(北海道開発局 室蘭開発建設部長)
 青山 剛 氏(室蘭市長)・小笠原 春一 氏(登別市長)・菊谷 秀吉 氏(伊達市長)
- 12:25 閉会挨拶

申込方法 申込フォームより事前登録

1/17(土) 申込〆切

記入事項/氏名、メールアドレス(必須)市区町村、会社名・学校名、役職

申込URL
<https://us02web.zoom.us/join/register?wn=BUVtQ3XU0tZwAQ-GeH1qA>

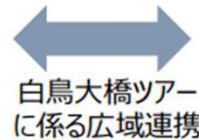
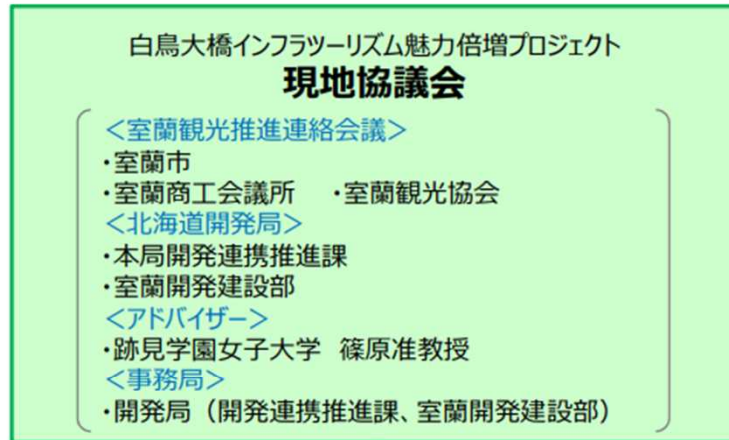
TEL 011-709-2311 (内線5441・5837) / FAX 011-746-1032

主催 | 北海道開発局 共催 | 室蘭観光推進連絡会議 [室蘭市・室蘭観光協会・室蘭商工会議所]
 後援 | 北海道運輸局・北海道・北海道観光振興機構・北海道登別洞爺湖広域観光圏協議会

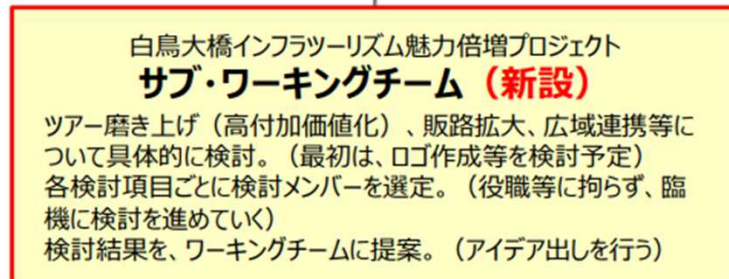
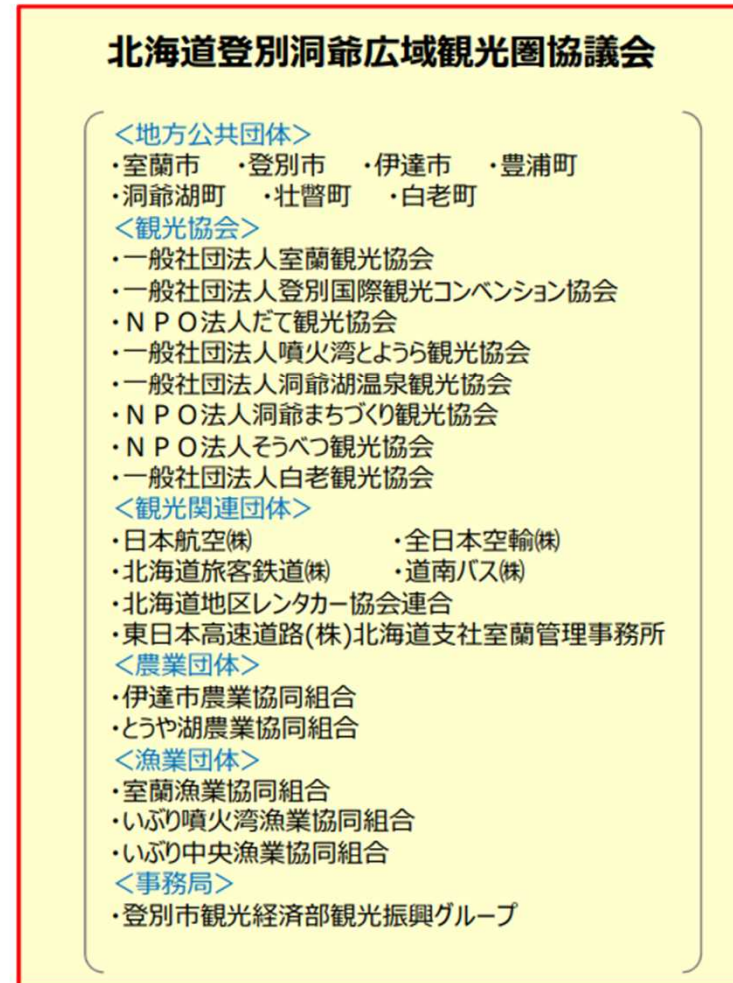
1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 白鳥大橋④ -

白鳥大橋に関連する今後の検討体制（案）

○白鳥大橋ツアーに係る検討



○西胆振地域（広域観光圏）の検討



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - 白鳥大橋⑤ -

今後の実施方針

	課題（未実施項目を含む）	課題に対する取組の方策（案）
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 個人向けの有料ツアーの販売が行われており、基本的なインフラツーリズムの実践はされている 	<p><収益性の向上及び上位目標の設定></p> <ul style="list-style-type: none"> 気象条件に左右されるツアーの販売実績がある前提のもと、一定以上の収益を確保できるようなツアー単体での収益を確保する必要がある また、既存の実績以上に必要な目指すべき上位目標を設定し、取組みを加速させる必要がある
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> スターマリン(株)を中心としたツアーの運営体制や基本的な受入環境は整備済み 	—
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> 雨天時（中止時）の代替案がインフラ施設/地域資源において少なく、中止になった際の地域に対して観光客からの収益ポイントが少ない 	<p><地域一体となった代案づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ボルタ体験工房等、地域と連携し雨天時に提供可能かつ白鳥大橋来訪者の希望（絶景/インフラ施設を知れる特別感）と合致する代替案を造成する必要がある 代替案示せば、雨天振替を求める教育旅行等の旅行会社が販売する団体性の顧客ヘリーチが可能となり、販売先が広がる可能性もある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> スターマリン(株)のウェブサイトによる情報発信の実施及び販売予約窓口は構築済み 地域事業者とした連携し、室蘭市周辺にすでに来訪している観光客への情報発信は不足している印象 	<p><地域事業者と連携し“旅ナカ”需要の獲得></p> <ul style="list-style-type: none"> 室蘭市周辺の宿泊や観光、飲食等の事業者と連携し、室蘭市周辺（洞爺湖や登別等）に宿泊する観光客に対して情報発信を行う必要がある 旅ナカ需要を獲得することで販売実績の底上げを図ることができる。なお、当日の飛び入り参加が可能な状態かつ飛び込み予約できる状態での情報発信が望ましい

<総括>

✓ 販売実績の積み上げ、更なる地域連携の促進

- コンテンツ造成や体制構築、受入環境整備等のインフラツーリズム商品の販売・運営に係る事業基盤は構築済み
- 室蘭市及び周辺観光地（西胆振地域等）との連携を図り、更なる実績の積み上げを行う必要がある

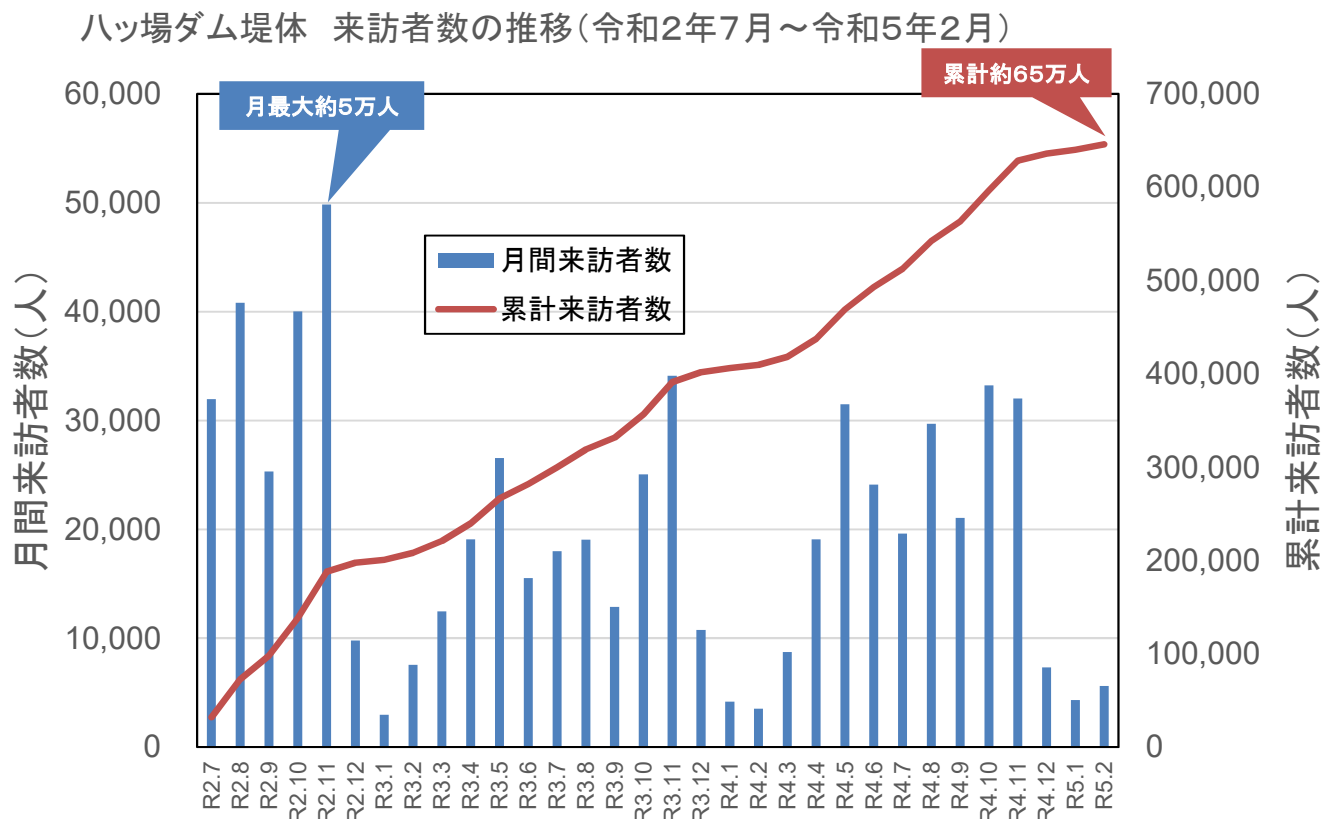
ハツ場ダム
(関東地方整備局/利根川ダム統合管理事務所)

1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - ハツ場ダム① -

ハツ場ダムの堤体付近及びダム湖周辺地域では、既存の観光資源や新たに整備した地域振興施設の更なる利活用が求められており、『ハツ場ダム水源地域ビジョン』により、吾妻渓谷や浅間山が育む豊かな自然環境の恵み、魅力ある地域の観光資源、地場産業、ハツ場ダム周辺の様々な施設等を、ダム上下流地域の連携によって総合的に活用し、ハツ場地域全体の自立的・持続的な発展を推進しています。今後も、管理棟やダム堤体等を活用した取り組みを実施していきます。

ハツ場ダム 堤体来訪者数(令和2年7月～令和5年2月)

令和2年7月から一般開放しているハツ場ダム堤体には連日、多くの観光客が訪れており、令和5年2月時点で累計約65万人の方が来訪しました。



1. 各モデル地区の進捗状況と中間総括 - ハツ場ダム② -

令和2年度より、水陸両用バス、バンジー・ジャンプ、カヌー・カヤック等の湖面利用が開始されました。令和3年3月に河川空間のオープン化(都市・地域再生等利用区域指定)に伴い、ダムサイトでのキッチンカー販売や日本酒の貯蔵が開始されました。また、令和4年1月より観光船が運航開始されました。



2. 社会実験の終了箇所について

2. 社会実験の終了箇所について

◎ : 実施中 (実施内容・役割分担等の決定)
 ○ : 検討中 (概ねの方針決定段階)
 △ : 検討中 (方針未定、着手の初期段階 (課題の整理等))
 - : 検討未着手

社会実験終了予定箇所

整理項目	天ヶ瀬ダム	鶴田ダム	日下川 新規放水路	来島海峡 大橋	鳴子ダム	白鳥大橋	ハッ場ダム
①戦略策定	△ 教育旅行向けにターゲットを絞るものの、事業性は未検証	○ 事業収益の向上を検討中	△ ターゲット別訴求内容/取組事項の整理段階	◎ 現状課題・今後の展開を整理	◎ 個人客をターゲットとした、有料ツアーを販売	◎ 個人客をターゲットとした、有料ツアーを販売	◎ 地域・企業による運営
②事業基盤の構築 (体制構築/受入環境整備)	○ 管理事務所、市役所、観光協会等による実施体制は構築済み	△ 河川空間のオープン化活用に基づく体制構築を検討	○ 覚書に基づく運営体制を実践中	◎ 来島海峡大橋インフラツーリズム推進会議を中心とした体制構築済み	◎ 地域DMOを中心としたツアー運営体制が構築済み	◎ 民間事業者による運営体制が構築済み	◎ 地域・企業による運営
③提供商品の造成 (コンテンツ造成/ガイド整備)	△ 教育旅行向けコンテンツの検討 お茶や地域の歴史・文化をつなぐストーリーを検討	△ 地域資源と連携したツアー商品のバリエーション化	△ ガイドシナリオを作成予定 並行して導入動画の制作を予定	○ 個人枠ツアーを導入予定 地域人材を活用したガイド整備	○ コンテンツのバリエーション化やアレンジメント能力の向上に向けた検討	○ 地域資源と連携したツアー商品のバリエーション化を検討	◎ 地域・企業による運営
④対外的な発信 (情報発信/販路構築)	○ ダムそのものの発信は管理事務所や観光協会にて実施	△ 観光商談会を皮切りに情報発信/販路構築を開始	△ 仁淀ブルー体験博における試験的な情報発信	○ OTAによる販路構築を予定	◎ 地域DMO等による販売及び情報発信	○ スターマリン(株)のウェブサイトによる情報発信 広域連携における情報発信を検討	◎ 地域・企業による運営
⑤地域が主体となったツアーの実施	△ 教員旅行向けの基幹コンテンツは検討中	○ 体験会の有料化予定	△ 核となる商品造成は途上	◎ 地域主体のツアーを継続的に販売	◎ 地域主体のツアーを継続的に販売	◎ 地域主体のツアーを継続的に販売	◎ 地域主体のツアーを継続的に販売

社会実験終了の観点: ⑤地域が主体となったツアーを実施している